

第10回 EST普及推進フォーラム実施概要

EST(Environmentally Sustainable Transport:環境的に持続可能な交通)の普及促進を図るため、ESTの取組みについて講演やパネルディスカッション等で検討する「第10回 EST普及推進フォーラム」を開催した。また、「第8回 EST交通環境大賞※」の表彰を本フォーラムの中で行った。基調講演で地域公共交通が生み出す多様な価値の考え方や実践方法について学び、受賞団体講演により優良事例を共有した後に、パネルディスカッションにて小型、低速の交通が生む多様な価値について検討した。

当日は、EST・交通環境対策について関心を持つ方々を中心に117名が参加した。フォーラム、表彰式の模様は2月16日の交通毎日新聞で記事として掲載された。また、「金沢市」の受賞が平成29年1月14日の北國新聞で、「姫島エコツーリズム推進協議会」の受賞が平成29年1月20日の大分合同新聞で記事として掲載された。

※地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰するとともに、その取組みを広く紹介し、普及を図るため、本フォーラムの主催者が平成21年度に創設した表彰制度。

日時:平成29年2月13日(月) 13:30~17:10
 会場:ルポール麹町「ロイヤルクリスタル」(東京都千代田区平河町2-4-3)
 主催:EST普及推進委員会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
 後援:国土交通省、環境省、警察庁、一般社団法人日本自動車工業会、
 公益社団法人日本バス協会、一般社団法人日本民営鉄道協会



←開催風景

広報チラシ→



「第10回 EST普及推進フォーラム」開催ご案内
 地域交通が生む多様な価値を考える



【写真】左上: 青の交響曲(近鉄グループホールディングス)、中上: まちのり(金沢市)、
 右上: ノーマイカーウェイ(松江市公共交通利用促進委員会)、左下: 低速度車「S-EMU」(でんき車体月プロジェクト)、
 中下: エコドライブ講習会(アースライフネットワーク)、右下: 姫島小島車庫(姫島エコツーリズム推進協議会)

EST (Environmentally Sustainable Transport: 環境的に持続可能な交通)の普及促進を図るため、ESTの取組みについて講演やパネルディスカッション等で検討する「第10回 EST普及推進フォーラム」を開催します。

また、「第8回 EST交通環境大賞」の表彰を本フォーラムの中で行います。基調講演で地域交通が生む多様な価値の考え方や実践方法について学び、受賞講演により優良事例を共有した後に、パネルディスカッションにて小型、低速の交通が生む多様な価値について検討します。

EST・交通環境対策の最新情報入手し、優良事例を共有した上で、現状の課題を検討する絶好の機会となりますので、皆様の参加をお待ち申し上げます。

※ 地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰するとともに、その取組みを広く紹介し、普及を図るため、本フォーラムの主催者が平成21年度に創設した表彰制度。

日時:平成29年2月13日(月) 13:30~17:10 (13:00受付開始)
 会場:ルポール麹町2階「ロイヤルクリスタル」
 〒102-0093 千代田区平河町2-4-3
 主催:EST普及推進委員会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
 後援:国土交通省、環境省、警察庁、一般社団法人日本自動車工業会、
 公益社団法人日本バス協会、一般社団法人日本民営鉄道協会



開会挨拶・基調講演

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団、国土交通省、環境省からの開会挨拶のあと、基調講演が行われた。

○開会挨拶

岩村 敬 公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 会長
篠原 康弘 国土交通省総合政策局 次長
瀧口 博明 環境省水・大気環境局自動車環境対策課長



○基調講演

「地域公共交通が生み出す多様な価値を考える〔クロスセクター効果〕」

土井 勉 大阪大学COデザイン・センター 特任教授



公共交通のサービスの本質
安全と接遇は当然として

利用促進	
1. 転換	① 路線・系統 ② タイヤ・頻度 ③ 運賃政策・収支
2. 創造	④ 車両 ⑤ 駅・停留所・乗換 ⑥ 情報提供

内閣府「公共交通に関する意識調査」(2017年11月)
・利便性が向上すれば、出かける回数が増える(39.4%)
18歳～24歳(40歳代)の3%

表彰式・受賞団体講演

基調講演に続き、第8回 EST交通環境大賞の表彰式が行われ、国土交通省篠原次長、環境省瀧口課長、EST普及推進委員会 太田委員長から各賞授与 及び、太田委員長から審査講評が行われた。その後、休憩の後、受賞団体から受賞団体講演が行われた。

○表彰式

篠原 康弘 国土交通省総合政策局 次長
瀧口 博明 環境省水・大気環境局自動車環境対策課長
太田 勝敏 東京大学 名誉教授

【大賞 国土交通大臣賞】金沢市
【大賞 環境大臣賞】近鉄グループホールディングス株式会社
【優 秀 賞】松江市公共交通利用促進市民会議
【奨 励 賞】一般社団法人
でんき宇奈月プロジェクト
【奨 励 賞】姫島エコツーリズム推進協議会
【奨 励 賞】特定非営利活動法人
アースライフネットワーク

○受賞団体講演

「交通によるまちづくりの実現に向けて」
土田 昌伯 金沢市都市政策局交通政策部交通政策課 課長補佐
「近鉄グループの環境取組みについて」
増田 康浩 近鉄グループホールディングス株式会社総務部 部長



パネルディスカッション 「小型、低速の交通が生む多様な価値を考える」

コーディネーター：太田 勝敏	東京大学 名誉教授
パネリスト：土井 勉	大阪大学COデザイン・センター 特任教授
町野 美香	一般社団法人でんき宇奈月プロジェクト 事務局長
寺下 満	姫島エコツーリズム推進協議会 会長
軸丸 真二	国土交通省総合政策局環境政策課 地球環境政策室長
瀧口 博明	環境省水・大気環境局 自動車環境対策課長

【概要】

我が国の地方における公共交通の衰退は、マイカーの増加に伴い環境負荷が増大する等の問題を引き起こしている。今後の更なる低炭素社会を見据えたときに、小型、低速の交通は、歩行者とも共存できる新たなモビリティとして、地域内における生活の足や観光地での移動手段として、その解決策の一つになることが期待される。

今回のEST交通環境大賞では、宇奈月温泉(黒部市)と姫島(大分県)における小型、低速の交通による取組みが奨励賞を受賞した。これらの先進的な取組みは、環境負荷の削減に留まらず、域内の重大な交通事故を低減する安全面や新たな観光資源として誘客する経済面の効果が期待されるほか、高齢者が積極的にまちを歩き、社会との繋がりを継続するなど、多様な価値を生み出している。

我が国は、現在、高齢化社会を迎えつつある。バスなどの公共交通がなく、マイカーを手放すことができない高齢者に対して、比較的安全な交通手段を提供する必要がある。低速なモビリティは今後、その必要性を増す。また、観光立国を目指す我が国において、観光地のモビリティとして小型、低速のモビリティの普及が期待されている。

今回のパネルディスカッションでは、前半に、優秀賞・奨励賞受賞団体の取組み内容をご発表いただき、その後、宇奈月温泉、姫島の取組みに対して質疑を行い、取組みに対する知識を深めた後、これらの交通が生む価値を検討した。

